



# 地本NEWS

2016年  
5月10日  
自治労北海道  
網走地方本部  
2016 第11号

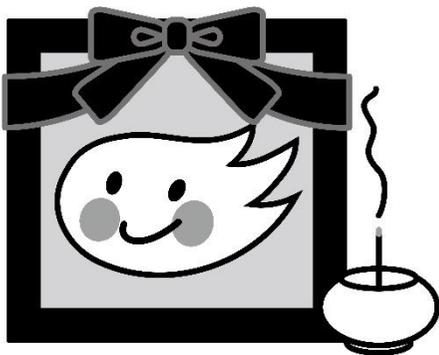
新人必見!

共済(保険)のはなし

## 必要な「保障」を考えよう

唐突ですが、自分に万が一のことが起こったとき「いくら必要なのか」を考えてみましょう。

例えば、37歳の男性Aさんは年収が500万円、専業主婦の妻35歳と子供2歳、貯蓄が200万円あるご家庭で夫Aさんが死亡した場合、支給される職域保障(退職金400万円、自治労共済基本型50万円)は計450万円とします。



① 残された家族の基本生活費

世帯年収の約6割・・・ 300万円

② 公的保障(遺族年金)・・・ 150万円

※ご加入の年金(地方公務員は市町村職員共済組合など)によって支給額は変わります。

③ 一時的費用

葬祭費100万円・ローン返済250万円・配偶者収入の補てん(①基本生活費300万円・②公的保障150万円)×4年＝600万円  
950万円

※「配偶者収入の補てん」とはご遺族が新たな生活(就労等)をスタートするまでの生活費で、「年数(4年)」は、子供が小学校に入るまでの年数。

④ 将来発生する費用

子どもの教育資金(年齢により800～1400万円が目安)・・・1千万円、配偶者の老後準備資金(年齢により700～1千万円が目安)・・・700万円  
計1700万円

Aさんの【必要保障額】は

③一時的費用 + ④将来発生する費用) - (職域保障(退職金等) + 貯蓄)で、数値を入れると  
(950万円 + 1700万円) - (450万円 + 200万円) = **2000万円**

▼この保障を「じちろう団体生命共済」では、死

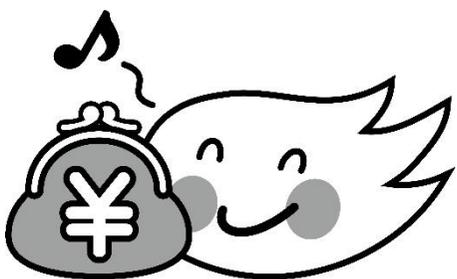
亡保障2千万円で月額4480円(K型)の掛け金となります。その一方で単身者にオススメの死亡保障600万円では月額2520円(D型)の掛け金で保証が得られます。また、団体生命共済の加入者は退職後の保障(最長80歳満期型など)を準備するための積み立てとして「長期共済」に加入できます。

※掛け金は年代別に違います。医療保障は入院日額2千円で計算しています。詳しい掛け金は単組の共済担当者にお問い合わせください。

## 覚えておこう「種類は3つ!」

保険で「カギ」となるのは「死亡保障」ですが、種類は大きく分けると3種類で①定期保険 ②終身保険 ③養老保険です。それぞれにメリットやデメリットがあります。①は保険期間内(じちろう共済は1年)に死亡した場合のみ死亡保険金が受取れる、いわゆる「掛け捨て」と称される(実際には「捨て」ではない)もののため、毎月の保険料は安い。②は死亡保障が一生継続し、死亡した場合には死亡保険金が受取れる。途中解約しても「解約返戻金」が戻ってくるため保険料は高い。③は保険期間内に死亡した場合には死亡保険金が、満期時に生存している場合は満期保険金が受取れる。「定期保険」「貯蓄機能」を付けた保険のため、保険料は高い。

▼現在の預金利率を考えれば「保険」と「貯蓄」をキツチリ分けて、保障の部分は定期的に見直せる「定期保険」、貯蓄は実質年利が高い優位なものを選ぶことが「お得」かもしれません。



## 保険? 共済? ちがいは?

単身者や家族がいる人で、ライフスタイルがちがいますから「必要保障額」も大きく異なります。

最近では、単身者が死亡保障5千万といった高額な保障や、毎月の支払いが4万円を超えるような保険に加入してしまい、生活ができないという相談もあります。

保険や共済は、就職・結婚・子どもの誕生・住宅購入・子どもの独立など、ライフステージに合わせて必要な「保障」の見直しを行い、ムダをなくして自分で自由に使えるお金(可処分所得)を増やしましょう。

「保険」は株式会社等が金融商品として販売し、その運用利益は出資者である株主などに配当します。一般的には保険料が「高い」というイメージが持たれています。一方、「安い」共済(ここでは「じちろう共済」)は、生活協同組合で組合員同士の「助け合い」で成り立っています。加入者が「出資金・掛け金」を出し合って運用していますから運用利益は加入者にお返しします。どちらも保障は同様ですが、運用形態が違うので保険料(掛け金)に差が出てくるわけです。

## 見直しのタイミングは？



保障の見直しや「じちろう団体生命共済」に加入するタイミングはいつか？今春に新たに労働組合に加入した人は、来年の「発効月」までは、いつでも加入できます。

しかし、既加入者や既組合員は毎年1回の発効月前の募集時期に「見直し」や「新規・継続加入」をしていただくこととなります。

### 【発効月】

- ▼10月 北見市労連・網走市労連・北見消防協議会
  - ▼1月 全道庁・広域紋別病院労組
  - ▼7月 前記以外の単組(3月募集)
- このほかにも、いくつかの単組では特別に「スポット募集」で年の途中から「団体生命共済」への加入することができます。

なんと！いま！スグ！  
できることがある！

じちろう共済には、退職後の保障にそなえて「積み立て」をする「長期共済」があります。

「団体生命共済」に加入している人は、発効月に関係なく、いつでも利用を始められます。

この「長期共済」は、皆さんが年末調整を行うときに「一般生命保険料控除」の対象になります。

長期共済に月払いで1口(3千円)加入した場合、積立金は、現在の予定利率(1.25%)で計算すると5年後には180700円、10年後には372000円となります。退職後は、積み立てた額を原資にして「年金給付」「医療給付」「遺族給付」に移行することができます。もちろん解約返戻金として一括で受け取ることもできます。

## ●長期共済の保障内容とそのメリット

